

---

「新約のきよめ」

第9章 全き愛

## 愛を表す二つの語

新約聖書には、愛を表す二つの語がある。

フィロス＝自然的な人間の愛情。新生する前から私たちの内に存在している。

アガペー＝聖霊によってたましいに分与された神の愛。

この神の愛は、神の国に生まれるまでだれも持っていないもの。

神の国に生まれるとき、賜物として私たちに与えられる。

それは私たちのための神の愛それ自体。

私たちの愛が主の愛と同種になり、他者に対する私たちの愛となる。

代価と犠牲がその証明。

神のように愛さざるを得なくなり、失われた者の救いというキリストの支配的な情熱が増し加わる。

人々に仕えることによって主に仕え、常に可能な限り最も多く、最良のものをささげる。

## 義務と恐れから自由と喜びへ

愛の奉仕は自発的なものであり、感謝の心から出る喜びのささげ物。

主イエスの愛が私たちのたましいにあふれ、より深く、より豊かになり、常に増大し続ける流れとなるとき、義務の生活は変貌して、自由と喜びの生活になる。

奉仕の動機が恐れから愛になる。

その違いは「しなければならないでしょうか」と「してもよろしいでしょうか」の違い。がまんしてするのと、喜んでするのの違い。

むちの下で働く奴隷のようにではなく、愛してくれる父のために熱意と喜びをもって仕事をする。

多くのクリスチャンには、この二つの動機が混在している。

これが全きものとなるのが「きよめ」。

喜びをもってみこころを選び、みこころはくびきではなくなる。

キリストの奉仕は完全な自由。

## それは律法が内に置かれている状態

これは律法からの自由でも、律法の下にあることでもない。

律法からの自由は放縦となる。律法の下にあることは奴隷となること。

それは律法が内に置かれている状態。

水が斜面を流れるように自然に、律法を愛する愛そのものから、心からの同意をもって律法を守る。

この経験に達するまで、私たちはしばしば重荷を負って山を登る人のようであるが、この経験に達するとき、重荷も山も突然消え去って、みこころを行うことを喜びとします。とすることができる。

古い契約は、外面的で強制力をもつ石に刻まれた律法。  
新しい契約は、心に刻まれていて、行為のすべての源泉を矯正し、鼓舞する。  
神の愛がすべてを制御する生涯の支配的な原則となる。

# その愛は、神を受け入れるときに受けるもの

緊張や努力などによって、作り出すことができるものではない。

愛は結果であって、原因がある。

私たちは神を受け入れるときに、愛を受ける。

愛を持ちたければ、神を求めなければならない。

神は愛であり、愛は神である。愛に豊かになることは、神に富むこと。

愛は単なる神の名ではなく、神の性質、神の存在、神ご自身。

神が心に来られるときに、ご自身とともにその愛を持って来られ、それを意識的に受け取ると、私たちの心に神に応じ答える愛が生じる。

キリストの愛を知ることと、私たちの愛がそれに答えることとは、キリストが心に入り、宿られることの結果。